

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

宮崎県 椎葉村

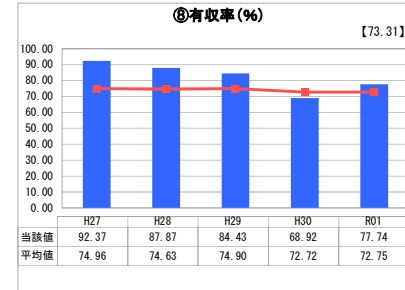
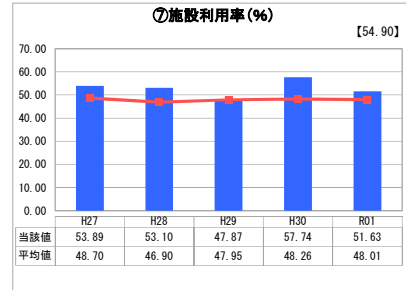
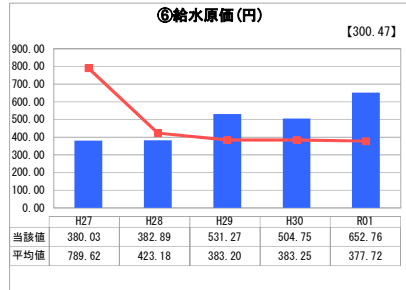
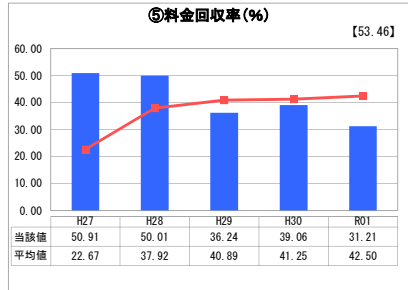
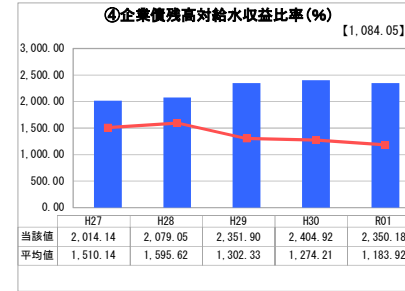
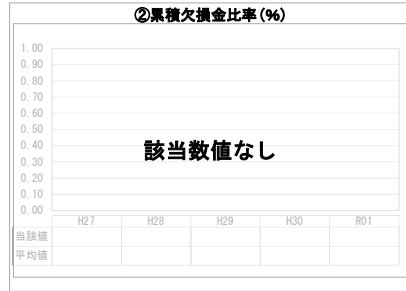
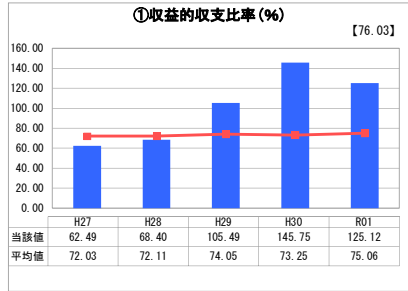
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	28.19	2,959	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,757	537.29	5.13
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
775	10.00	77.50

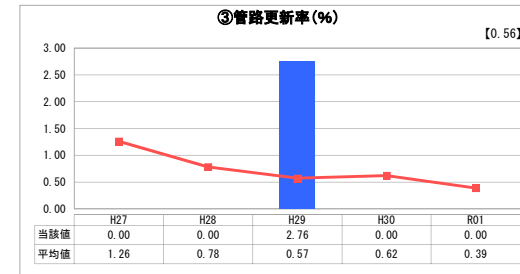
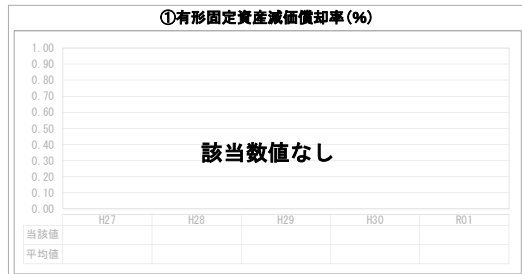
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率  
100%を上回っており、経営の健全性が確保されている。今後は水道料金収入の減少が予想される事に加え、土壌浄水場の電気設備更新のため総費用が増加する見込みである。
- 企業債残高対給水収益比率  
平成25・26年度に岩屋戸地区水道施設の更新工事を行った。また、平成30年度・令和元年度に本郷地区飲料水供給施設整備事業を行った。平成9～11年に行った上椎葉地区水道更新事業の起債償還が令和11年までであり当分は現状のまま推移する見込みである。
- 料金回収率  
平成30年度は39.06、令和元年度は31.21と昨年より減少している。飲料水供給施設の新設等により費用が増加したためである。
- 給水原価  
類似団体平均より多く推移している。昨年よりも増加しており、今後有収水量の減少によりさらに給水原価は増加すると予想される。
- 施設利用率  
昨年より減少している。今後料金収入の減少が予想されるため、将来的には施設のサイズダウンを検討し、経営の効率性について改善する必要がある。
- 有収率  
給・配水管の漏水を発見しだい修理しており、令和元年度は昨年より増加している。今後も修繕を行っていく。

### 2. 老朽化の状況について

- 椎葉村は1つの簡易水道（浄水場は2か所）と2つの飲料水供給施設を運営している。上椎葉地区水道施設は竣工から21年経っており、管路の老朽化はまだ無いが電気機器においては約10年毎に更新の必要があり随時更新改修を行っている。
- 岩屋戸地区水道施設は竣工から40年経っていたため平成25・26年度に更新工事を行い、施設、管路の老朽化は現在のところ解消されている。
- また、平成30年度・令和元年度で本郷地区飲料水供給施設を整備し、令和2年度から運営を開始したため、飲料水供給施設は3施設となった。

### 全体総括

椎葉村は面積が広く急な山々に囲まれ集落も点在しているため、水道普及率も28.19%と低く給水区域拡張は難しい。人口減少もあり水道料金の大幅な収入増加は見込めない。現在は水道料金収入と一般会計からの繰入金により財源を確保していくこととして、水道料金の引き上げはまだ考えていない。今後は電気機械等の老朽化に対応するため、限られた財源の中で計画的な更新を行っていくとともに、将来の給水人口減少を見込んだ施設規模の縮小など徹底した経費削減を行い経営の健全化に努めていく。経営戦略については平成29年に策定済みである。